

ほ場での角形梱包による稲わら収集販売

(埼玉県 (株) 谷部商店)

経緯

- ◆ 畳製造販売が主業。
- ◆ 自家生産した水稲20haのうち、10haほどで稲わらを収集し、販売。
- ◆ ミニロールでの収集を検討していたが、トラックへの積み込みを考慮し、角形梱包（30cm×90cm、約10kg/梱包）による収集を選択。ロールグラブを持たない畜産農家に好評。

<令和5年作付け状況>

品目	面積
水稲	20ha
うち、稲わら収集	10ha
大豆	2ha



稲わらの収集・取引状況

- ◆ 年内（1～2ヶ月）は、ほ場で乾燥させ、年明け1月から3月に収集し、即納品。
- ◆ 令和4年度は45tほど出荷。
- ◆ 4tトラックに、1パレット56個の稲わらを3パレット（1.6～1.7t）積み込んでいる。
- ◆ ほ場からの積み込み作業は人力で対応。
- ◆ 肉用牛農家を中心に販売。
- ◆ 販売先は飼料業者に紹介してもらっている。
- ◆ 需要があれば稲わらの販売量を増やしたい。

課題への対応など

- ◆ 水稲はほ場が乾いてから、地際10cmほどの高さで刈り取り。
- ◆ コンバインでの切断はしないため、稲わらの長さは90cm程度。これを角形梱包している。
- ◆ 稲わら収集は、水はけが良く、荷運びしやすい条件にあったほ場を選定し、収集～配送まで実施。

【令和6年1月30日現在】